



じしゅう どうこうさん  
時宗 東岡山

福田寺だより

【ホームページもご覧ください!】

<https://kyoto-fukudenji.com/>



～今月のおことば～

りんじゅう そく へいぜい  
臨終即平生なり

『一遍上人語録』

臨終というのは死に際だけではない。一瞬一瞬、一念一念に生と死は繰り返されている。

真教上人七百年御遠忌 成満

台風 19 号が東日本を直撃し甚大な被害を及ぼしました。亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、一日も早い復興を願うばかりです。

神奈川県藤沢市の総本山遊行寺も被災しました。樹齢 700 年で本山のシンボルとも言える大イチョウの一部が、強風により折れてしまいました。樹高 21 メートル、幹回り 7 メートルで市の天然記念物でもありました。再生を願いたいと思います。



奇しくも、10 月 11 日～15 日は「二祖真教上人七百年御遠忌」法要が修されており、私も裏方として出仕しておりました。台風直撃はまさに御遠忌真っ只中で、多くの団体参拝はキャンセルになったものの、何とか法要全てを成満することができました。

思い返せば本御遠忌は「なむあみだ佛はうれしきか」をスローガンに掲げ、昨年 9 月 16 日の神戸・真光寺での「有縁の地法要」から始まりました。さらには福井県敦賀市の来迎寺、氣比神宮で記念法要が勤められました。そして、今年の 2 月 27 日の開白法要を皮切りに本山において毎月様々な法要が行われ、10 月の結願法要を迎えたのです。住職は「二祖上人七百年御遠忌実行委員会」の委員として、私は広報部会員として御遠忌に携わらせていただき、時宗教団の礎を築かれた真教上人の恩徳を偲ぶとともに、祖師方より受け継がれてきた念仏の教えの喜びを広く分かち合えるようにと注力してまいりました。京都教区においても、京都国立博物館で御遠忌特別展、並びに「踊躍念仏」法要の公演、合同での本山団体参拝と、多くの檀信徒の皆様が御遠忌に触れていただくことができました。

「なむあみだ佛はうれしきか」とは、宗祖一遍上人が真教上人にかけられたお言葉で、念仏に生きる喜びをよく表していると思います。真教上人もそこに強く共感し教団の後継に尽力されたのです。時宗の教えでは、命が尽きる時に極楽往生を遂げようという考え方よりも、生きている“今”、念仏を称えて往生を果たそうという「平生往生」が強調されます。“往生＝死”ではなく、念仏することにより自分が様々な命に生かされている、絶対的な仏である阿弥陀仏のみ光に包まれているのだと気づくことが大事なことだと説かれます。

今回の御遠忌を通して学んだこと、感じたことを今後生かしていきたいと存じます。 合掌

結願法要



(右…他阿真円上人)  
(左…住職)

長野県佐久市  
「跡部の踊り念仏」奉納

